



一貫コース通信

“点から線”への視点

私はかつてバスケットボールの審判の資格を有していた。以前の勤務校ではバスケットボール部の顧問であり、地区選抜の指導スタッフとして、生徒たちに様々な観点からバスケットボールを指導することが可能になると思い資格を取得したのだ。

そのバスケットボールの審判で笛を吹く際に心がけなければならないものの一つに『三確認主義』というものがある。『三確認主義』とは、バスケットのプレイヤー同士が接触した時に審判によりファウルが宣せられるが、審判がファウルを宣する際の判断基準を指す。その基準は、①プレイヤー同士の接触の有無、②接触の責任がオフェンス側なのかディフェンス側なのか、③その接触がその後のプレーにどう影響するのか、ということであり、この基準に即して審判がファウルを宣するのである。

『三確認主義』を言葉にすると非常に簡単のように思われるが、バスケットボールの審判は英語でいうレフリー(Referee)であり、野球などの審判(アンパイアー:Umpire)とは異なり、常に選手とともに動き、刻一刻と変わるプレーを『三確認主義』に則り、瞬時に判定しなければならない難しさがある。

私も審判として笛を吹き始めたころは、選手同士の接触の瞬間を、その都度取り上げファウルを宣することが多々あった。しかし、そのような状態でファウルを宣すると観客・ベンチから不信の目で見られることがあるのだ。いわゆる『三確認主義』に基づいて判定されていないため、審判の笛に周囲が違和感を感じるのである。

では、『三確認主義』に基づき笛を吹くためには具体的にどのようにしなければならないか。それは、プレイヤー同士の接触が起きる前からプレイヤーの動きを捉えておかなければならないということである。具体的には、ボールを所有した状態からオフェンスがディフェンスと接触する瞬間だけ見るのではなく、ボールを持っていない状態からプレイヤーの動きを捉えなければならないということである。つまり、バスケットボールのゲームを接触が起きた“点”ではなく事前の動きからその後の動きまでの“線”で捉えなければならないということである。このような“線”で捉えるためには、審判はどこにポジションをとりプレイヤーを捉えなければならないのか、常に動きながら模索する必要があるのである。

このことは、バスケットボールに限ったことではなく、現代社会の諸問題においても重要な視点である。現在起きている多種多様な問題を、問題が起きた瞬間をとらえ、感情的に判断するのではなく、その問題の背景・その問題がどのように他へ影響をあたえるのかなどを視野に入れ、総合的に判断をしなければならない。もちろん、固定的な観念でその問題を捉えるのではなく、自分の意見の立ち位置を変えながら、物事の真理を追求していく姿勢が重要なのである。私自身が、完全にそのような視点に立って物事を考えているとは言い切れないが、問題を解決する糸口を探すため、そのような視点を忘れてはならないと心がけている。

